

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①授業力を高める
(主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善)
- ②家庭学習を充実させる

由岐中学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭:坂部美枝 (1年担任・国語主任・図書館教育主任・総合学習主任)	委員 校長:岩佐宣之 教頭:齋藤隆雄 教諭:田内茂美(教務主任) 教諭:大瀧達也(2年担任・防災安全教育主任・特別活動) 教諭:浅田浩輝(3年担任・生徒指導主事・体育主任) 教諭:倉田徹(2年主任・人権教育主事・キャリア教育主任) 講師:曾我部郁也(情報教育主任)
---	--

校長

岩佐 宣之

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学年によって差はあるが、課題等に真面目に取り組み、基礎的な知識は身に付いてきている生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ることに課題がある。テスト等では、記述問題が空欄になる生徒も多い。	・毎時間の授業に取り組む姿勢を大切に、基礎的な学習内容を確実に身に付けることができる。 ・各々の学習場面で身に付けた知識や技能を、他の学習や生活場面において活用することができる。	・朝自習や家庭学習で、漢字・計算・英単語・用語等の基礎・基本が定着するよう課題の出し方や内容を工夫する。 ・相互に授業を参観し、他学年・他教科の授業実践から、学習形態・発問・板書・ICT活用方法等の授業技術を学ぶ。	・各学年の課題克服のために、朝学習や家庭学習の課題を適宜見直し、基礎学力の底上げを図る。 ・ICTサポーターを活用し、1人1台端末利用の充実を図る。	・朝学習では、学年ごとに課題を検討・準備し、それぞれ一定の効果があった。 ・相互授業参観を計画的に実施することができた。 ・生徒のICT活用力や学習課題の処理能力は向上している。	・少人数校ではあるが、個々の基礎学力の差が大きく、難易度の違う課題を準備する必要がある。 ・相互授業参観を継続して実施する。 ・ICTを活用した効果的な指導力を教師も高める必要がある。

【各校の取組状況の把握について】

管理職また教員相互の授業参観、職員会や研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒が話し合い活動で積極的に発言し、友達の意見に耳を傾けることができている。 ●自分の考えは発表できるが、分かりやすくまとめたり、説明したりすることが苦手である。また他の人の意見をふまえて話し合いを深めていくことは不十分である。	・各授業での課題に積極的に取り組み、グループ等で協力して課題を解決することができる。 ・自分の意見を適切にまとめて人に伝えたり、適切な言葉を使い文章に書き表したりすることができる。	・話し合い活動や意見を発表する場、考えさせる場を多く設定する。 ・朝自習等で読書時間を設けることで、語彙を増やし、文章の書き方や内容を要約する等の力を付けさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じて、再発問したり根拠や理由を問うたりすることにより、生徒の考えを深めさせる。	・積極的に意見を発表する生徒は多いが、発表の際には、他の人によく聞こえるように、また根拠を示しながら、わかりやすく話ができるよう、各授業で意識させていく。	・自分の考えを述べることはできるが、生徒数の少なさから、多様な意見を伝え合ったり、深い話し合い活動に発展させたりすることができなかった。 ・他学年との学習では遠慮がちになり、自分の考えを述べようとせず、上学年の意見に迎合する傾向がある。	・体験学習や異学年集団学習、また交流学习などを充実させ、多様な意見や考えが生まれるように工夫し、学年関係なく意見を伝え合える雰囲気を作る必要がある。 ・発表の技能(声の大きさや言葉遣い、内容の推敲、わかりやすく説明する等)を各授業で指導する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの生徒は、授業に真面目に取り組んでいる。また宿題や課題は必ず提出しなければいけないという意識をもっており、提出率も高い。 ●与えられた課題には真面目に取り組むが、それ以上のことや弱点の克服のために自主的に取り組む生徒は少ない。	・わからないところをそのままにせず、積極的に質問することができる。 ・各教科の学習に主体的に取り組むとともに、得意な教科の力をさらに伸ばし、苦手な教科を克服することができる。	・生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、授業のめあてを視覚的にも明確に示し、授業の振り返りする。 ・家庭学習の方法がわからない生徒への手立てとして、「学習の手引き」を作成し、家庭学習の充実へ導く。 ・自主学習ノートの点検方法も工夫する。	・授業冒頭に本時の学習のねらいを生徒に理解させることを徹底する。 ・「学習の手引」から、各自の家庭学習の改善のヒントを見つけさせ、実践に移させる。 ・自主学習ノートを全教職員が輪番で点検し、意欲付けを図る。	・ほとんどの生徒が、与えられた課題には真面目に取り組むことができる。テスト前には、課題以外の学習にも進んで取り組むようになってきている。 ・「学習の手引き」が活用されていない。 ・自主学習ノートを輪番でチェックすることで生徒の学習状況が把握できるが、アドバイスが活かされていない。	・ワーク等の課題を単元ごと等に課し、点検・指導・評価することが必要。家庭学習の具体的な指示を、授業で行う。 ・「学習の手引き」を用いて、家庭学習の仕方や自主学習ノートの内容について、各授業でアドバイスや指導を続ける。

令和6年度 学力向上ロードマップ

